

研究主題

勢いのある鳥取市の体育 ～はずむ心 豊かな学び 確かな力～

1 研究主題について

この研究主題のもと、第52回中・四国小学校体育研究会鳥取大会（米子会場）以降も、鳥取市では確かな実践を積み重ねている。この土台をもとに、新学習指導要領の動向に注視しながら、平成35年度の第61回中・四国小学校体育研究会鳥取大会に向けて、一歩ずつ研究を深めていきたい。

数年後には鳥取県小学校体育研究大会が鳥取市で行われる。その準備に取りかかる29年度は、各ブロックの授業研究会、夏季一泊研、中・四国小体研等への積極的な参加を通して、指導力の向上を図ってきたい。

2 研究の視点

① 身に付けさせたい力を明確に持った指導

・ 学習内容の明確化 ・ 学習過程の工夫

② 自己の気づきへの指導

・ 効果的な指導 ・ 言語活動の充実

③ 形成的授業評価や振り返りを活かした指導

・ 形成的授業評価やデータを活かした授業分析 ・ 教師の指導力の向上

「主体的・対話的で深い学び」
の実現のための授業改革

3 研究の取り組み

・ 7月7日 鳥取市全体授業研究会

めざせ！バトンパス名人（陸上運動領域「短距離走・リレー」）6年生

醇風小学校 太田周平教諭 指導助言 城北小学校 長谷川誠一校長

※実践の成果と課題を夏季一泊研修会で発表

※第55回中四国体育研究大会（香川大会）での実践発表

・ 10月17日 Aブロック授業研究会

リズムとなかよし～めざせ！みらいのおもかげにんじゃ～（体づくり運動領域）1年生

面影小学校 澤田孝志教諭 指導助言 県体育保健課 橋本康雄係長

・ 10月31日 Bブロック授業研究会

競ってつないで2サークルリレー（走・跳の運動領域「かけっこ・リレー」）4年生

河原第一小学校 岡本 翼教諭 指導助言 倉田小学校 山本英世校長

・ 12月12日 Cブロック授業研究会

つないでアタック（ボール運動領域「ソフトバレーボール」）6年生

岩倉小学校 塩 晃教諭 指導助言 醇風小学校 北村知憲校長

・ 各ブロック研究会の実践のまとめを2月2日の鳥取市体育冬季研修会で発表

・ 研究集録「躍動47集」の刊行

身につけさせたい力を明確にした 体づくり運動の授業

ー第1学年「リズムとなかよし～めざせ みらいのおもかげにんじゃ～」の実践を通してー

鳥取市立面影小学校 澤 田 孝 志

1 テーマ設定の理由

児童の体力の低下が言われて久しい。本校では特に、今年度の新体力テストにおいて、「ソフトボール投げ」の項目は、全ての学年において男女とも全国平均(H28)を下回った。体力の低下とともに、運動時や日常生活において、基本的な動きがぎこちない「不器用」な児童が増えてきていると実感している。本校に勤務して、2年連続1年生の担任を受け持っている。「階段を降りるのを怖がる」「スキップができない」「手をつながないと、平均台を渡れない」児童も見受けられる。高学年の児童にも、「陸上大会に向けた記録測定で、両足を揃えたままボールを投げている」姿を見てきた。

また、幼児期の運動遊びについて、課題や発達の特徴を以下に挙げる。(※)

体力向上の緊急の課題

- *全国体力・運動能力、運動習慣等調査から
 - ・子どもたちの体力は依然として低い状況
 - ・積極的に運動する子とそうでない子の二極化
- *運動に親しむ幼児、児童生徒の増加
- *運動嫌いをなくすための手立て
- *運動が苦手な子への配慮、支援
- 魅力ある遊び・学習
- 豊かなスポーツライフの実現

幼児期の身体活動の課題

- *多様な動きを含む遊びの経験が少なくなっている
- ・活発に体を動かす遊びが減っている
- ・体の操作が未熟な幼児が増えている
- ・自発的な運動の機会が減っている
- *体を動かして遊ぶ時間や環境が少なくなっている
- ・体を動かす機会が少なくなっている

(※) (平成29年度学校体育講習会「幼児の運動遊び」の配布資料を引用・参考)

今回の授業研にあたり、上記の今日的な状況をふまえて、本校児童の課題を考えた。

【課題】

『環境的要因が強く影響している投動作の技能を、いかに高めていくか』

新体力テストにおいて、「ソフトボール投げ」の項目は、全国平均(H28)を下回った。1年生の投げる動作も、大きな課題がある。

『動きがぎこちない児童に多様な動きをいかに経験させていくか』

幼児期の運動経験が乏しい児童が多く、体力のなさや恐怖心につながっている。いろいろな動きを経験して、身につけさせていく必要がある。

2 研究の視点

①身に付けさせたい力を意識した指導

- 体を移動する運動遊び …「リズムジャンプの時には、体を安定させてリズムよくジャンプする」
- 用具を操作する運動遊び…「投げる時には、ひねり動作をする」

②体育学習以外の場面にもつながる「1年生にとって楽しい」学習内容

- 運動遊びの場面では、児童が場やルール工夫ができるように
- 休憩時間や放課後の時間など、日常生活の中で運動を行う習慣に導く

3 研究の実際

① 身に付けさせたい力を意識した指導をするために

児童に入りやすい「言葉」を使う。分かりやすい言葉が、リズム感やひねり動作につながった



【投げる動きの様子】

〈遠くへゾーン〉	〈ねらってゾーン〉	〈ふんわりゾーン〉
新聞紙で「矢」を作り、遠くへ投げる。投げた距離により、1点、2点、3点となる。	彗星ボールをフープの中をねらって、投げ入れる。投げ入れた数が得点になる。	玉入れの玉を、バスケットゴールに入れる。入れた数が得点になる。



② 体育学習以外の場面にもつながる「1年生にとって楽しい」学習にするために

○運動遊びの場面では、児童が場やルール工夫ができるように

	体を移動する運動遊び (リズムジャンプ)	用具を操作する運動遊び (投げる動き)
つけさせたい力	「体を安定させてリズムよくジャンプする」	「ひねり動作をする」
工夫	(1) 空間的調整…上下、左右、斜め、いろいろな方向に (2) 時間的調整…早く・ゆっくり、短時間で・長時間で、タイミングを合わせて・ずらして	(3) 力量的調整…弱く・強く、力に変化をつけて

○本単元の学習を通して学んだことを生かし、休憩時間や放課後の時間など、日常生活の中で運動を行う習慣を身につけさせることも意識させる。

- ・リズムジャンプ用に教室の床にテープを貼った
- ・紙飛行機を作って飛ばせるように自由に使っていい紙を置いた

4 研究の成果と課題

(1) 成果

①身につけさせたい力の動きが、習得できた児童が増えた

「リズムジャンプの時には、体を安定させてリズムよくジャンプする」「投げる時には、ひねり動作をする」ことが、単元の始めよりもできるようになった。

	体を移動する運動遊び (リズムジャンプ)	用具を操作する運動遊び (投げる動き) ○の数字は人数
単元始め	・リズムがバラバラ ・片足着地 ・できる動きが、少ない ・曲に合わせて、踊れない	・わしづかみで握って ・正面を向いたまま④ ・ステップせずに② ・逆の足を踏み出して⑥ ・自由手を使わない(下に向けたまま) ・肘を伸ばしたままで②
単元終わり	→タンバリンに合わせてリズムを取れるように。 →両足着地に ・できる動きが、増えた ・曲に合わせて、踊れるように	・投げる方向に横向きになって ・ステップして ・左足を踏み出して ・自由手は斜め上にして ・肘を曲げてテイクバック ・ひねり動作をして ・腕や手首のムチを使って

②「楽しい」実感から、日常生活でも、投げる運動をする場面が増えた

児童が「楽しさ」を実感し、授業中の発言も増えてきた。「遠くに」「ねらって」「ふんわり」投げるためのコツを発言したり、「めあて」を意識してやっていた友だちを見つけたり、主体的に学習しようとしたりする姿が増えた。休憩時間にも、運動する場面が増えた。投げる時のかけ声「ピース、ボルト、ふんわり、ビュン」は、すっかり馴染んでいる。紙飛行機を作り、みんなで一斉に飛ばしたり、飛行する距離を競争したりして、自然と投動作に親しんでいる。

(2) 課題

①投動作の習得を、「ボール投げの距離」につなげること

本実践において、「投げる時には、ひねり動作をする」動きの習得は、ある程度見られた。単元の始めと終わりで、投げる距離の平均は、8.0mから8.6mに伸びた。距離が伸びた児童は14名、一方距離が伸びていない児童は8名。

投げる動作は「体のムチ」「腕のムチ」「手首のムチ」を時間差をつけて「ひねる」難しさがある。距離が伸びていない児童にとって、方向や玉を離すタイミングが、難しかったと推測している。

②教具や場の工夫

今回は3つの場（遠くへ投げる、ねらって投げる、ふんわり投げる）を設定した。教師のねらいと照らし合わせ、場の設定が有効であったか、検討が必要。

③続けられるようにするための手立てをすること

児童の意欲を高めたり運動を継続させたりするために、動きが身に付いたり、体力が高まった実感を持たせたりすることが大切である。取り組みの成果が目に見える形で分かるような工夫や、体育の授業以外にも運動に向かうような教材の開発を継続していく。

1 単元名 「リズムとなかよし ～めざせ みらいのおもかげにんじゃ～（体づくり運動）」

2 授業作りの構想

(1) 運動の持つ特性

○運動に取り組む過程で、思い通りに体を動かせたり体力の向上を実感したりした時に、楽しさや喜びを感じる運動である。

○運動遊びを通して、体の基本的な動きを総合的に身につけることができる。

○動きを教え合ったり、ルールややり方を工夫したりする場面を設けることで、意図的に仲間と豊かにかかわらせることができる。

○自分の体力を知ったり、自分の課題に向けて自ら運動に取り組んだりする技能を身に付け、生涯にわたって自分の体を見つめる態度を養うことができる。

○体育の授業だけではなく、休み時間や家庭での運動を日常的に行うことを通して、いろいろな動きを習得することができる。

(2) 児童の実態

○男子11名、女子12名、計23名。特別な支援が必要な児童もいて、配慮をしている。

○休憩時間や放課後児童クラブでは、校庭の遊具で遊んだり、おにごっこをしたりして、運動をする姿が見られる。一方、教室遊びを好む児童も多い。

○新体力テストの結果を見ると、B…7名、C…7名、D…5名、E…1名、記録なし…1名である。

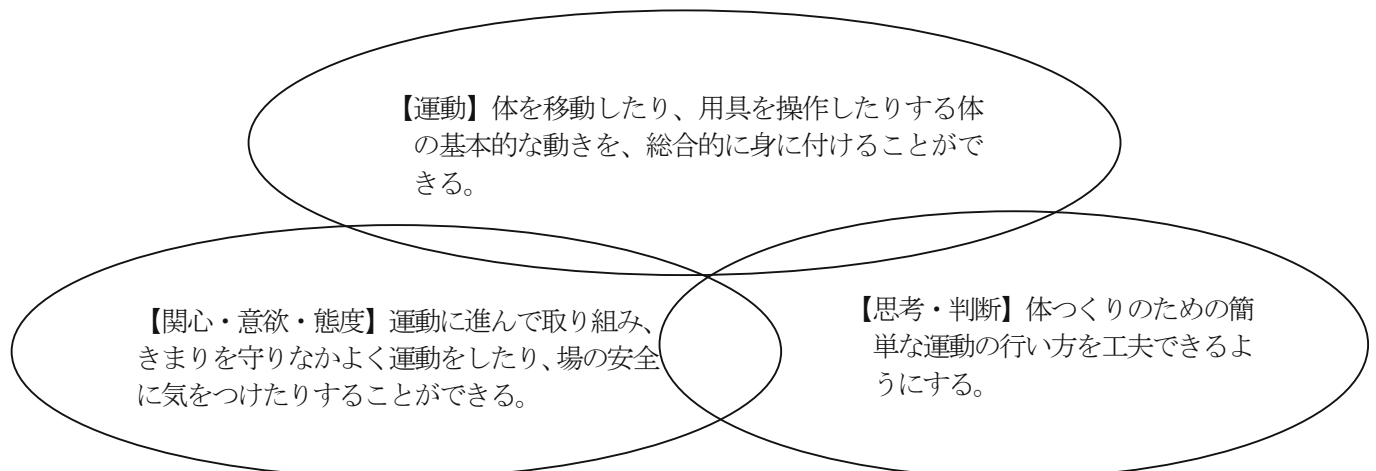
○スキップができなかったりリズムよく跳べなかったり、階段を降りたり平均台を渡ったりするのを怖がる児童も多い。運動会の玉入れでは、右足前で投げたり、玉を上へ投げられなかったりする児童もいた。

○「とびっこあそび」では、ミニハードルなどを、自分たちで話し合って場所を決め、楽しむ経験をしてきている。また「どうぶつランド」では、自分たちで動きやお話を考え表現する活動をしてきている。

(3) 運動（学習内容）の系統性

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動
体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動
多様な動きをつくる運動遊び (ア) 体のバランスをとる運動遊び (イ) 体を移動する運動遊び (ウ) 用具を操作する運動遊び (エ) 力試しの運動遊び	多様な動きをつくる運動 (ア) 体のバランスをとる運動 (イ) 体を移動する運動 (ウ) 用具を操作する運動 (エ) 力試しの運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動	体力を高める運動 (ア) 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動 (イ) 力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動

(4) 単元の目標



(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- ・身に付けさせたい力や達成した児童の姿を意識して指導していく。
体を移動する運動遊び…身に付けさせたい力は「リズムジャンプの時には、体を安定させてリズムよくジャンプする」
用具を操作する運動遊び…身に付けさせたい力は「投げる時には、ひねり動作をする」こととする。
- ・児童の実態から、今回の単元の学習内容を考えていく。リズム感のなさや投動作のぎこちなさに、手立てを打つ必要性を感じ、単元構成を考えた。なわとびなど他の用具を操作する運動遊びや力試しの運動遊びは、冬以降に計画している。
- ・運動遊びの場面では、児童が場やルール工夫ができるようにしていく。
空間的調整…上下、左右、斜め、いろいろな方向に
時間的調整…早く・ゆっくり、短時間で・長時間で、タイミングを合わせて・ずらして
力量的調整…弱く・強く、力に変化をつけて など
- ・本単元の学習を通して学んだことを生かし、休憩時間や放課後の時間など、日常生活の中で運動を行う習慣を身につけさせることも意識させる。リズムジャンプ用に教室の床にテープを貼ったり、紙飛行機を作って飛ばせるように自由に使っていい紙を置いたりしている。
- ・体力の向上を実感させるために、単元の始めに測定したボール投げの結果と、単元の後半に測定したボール投げの結果を提示し、伸びを児童が実感できるようにする。

(6) 単元の流れと評価の計画

		1	2	3	4	5	6（本時）	7
主なねらい		学習の進め方を知ろう	リズムよくジャンプしよう	リズムよく踊ろう	「ボルト」で斜め上に手を向けよう	「ふんわり」で足を上げよう	「ビュン」で腕や手首を降ろう	上手になったところを見つけよう
核となる学習内容		・学習の進め方 ・ボール投げ測定	・ジャンプしながら踊る	・ジャンプしながら踊る	・リズムジャンプ ・自由手の動き	・リズムジャンプ ・足の動き	・リズムジャンプ ・腕や手首の動き	・上達の確認 ・ボール投げ測定
学習活動	・わかる ・できる ・ためす	【体を移動する運動遊び】 ・先生のまねをしよう ・「世界中のこどもたちが」に合わせて踊ろう ・ボール投げ測定 ・投げる時のかけ声を知ろう ピース、ボルト、ふんわり、ビュン			【体を移動する運動遊び】 ・「世界中のこどもたちが」に合わせて踊ろう ・「さんぽ」に合わせて、リズムジャンプをしよう 【用具を操作する運動遊び】 ・チームの友だちと、運動遊びをしよう ①□ 遠くにゾーン…新聞紙の矢を遠くへ ②□ ねらってゾーン…彗星ボールをフープの中に ③□ ふんわりゾーン…玉をバスケットゴールの中に			・第1時から上手くなった映像を見よう （リズムジャンプ、ボール投げ） ・ボール投げ測定
評価	関	1	2	3	1	2		
	思	1				2		
	運		1	1	2		2	2
生活へ		教室の環境整備（リズムジャンプ用のテープを貼る、紙飛行機用に自由に使っていい紙を置いておく） 面いっきりデーの活用（クラスで行う「教室遊び」で、みんなで紙飛行機を作って飛ばす）						

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動
具体的な評価規準	① 運動に関心を持ち、進んで取り組もうとする。	① 体づくりのための簡単な運動のねらいや行い方について理解している。	① 体を移動する動きができる。
	② きまりを守り、友達となかよく運動しようとする。	② 友達と話し合い、運動の行い方を工夫している。	② 用具の操作をする動きができる。
	③ 場を気を配り安全に運動しようとする。		

3 本時の学習 (6 / 7)

(1) 目標

- 投げる運動に関心を持ち、体を移動する運動遊びや用具を操作する運動遊びに進んで取り組もうとする。【関心・意欲・態度】
- 自分の技量を合わせて、フープやバスケットゴールまでの距離を変えて運動しようとしている。【思考・判断】
- 腕や手首を振って、投げるができる。【運動】

(2) 準備 CDラジカセ、タンブリン、ダンボール、風船、新聞紙 (細長くしたもの)、彗星ボール、玉入れの玉、フープ

(3) 展開

学びの段階	学習活動と予想される児童の反応	核となる言葉かけ	○指導上の留意点 ・支援 ★評価【観点】(方法)
ひらく	1 体を移動する運動遊びをする。 ・『世界中の子どもたちが』に合わせて、踊る ・『さんぽ』に合わせて、リズムジャンプをする 2 本時のめあての確認をする。 「ビュン」で うでや てくびを ふろう	両足で ジャンプしよう	○歌を流し、いろいろな動きを音楽に合わせて、踊る。 ○タンブリンを使って、リズムよくジャンプできるようにする。
調べる	3 用具を操作する運動遊びをする ① とおくへゾーン…細長くした新聞紙を、遠くに投げる 「ビュン」で、速く 腕を振るよ 斜め上に、投げるよ 黄色(緑)の線まで、 飛んだよ ② ねらってゾーン…水星ボールを、フープに投げる フープの真ん中を 狙うよ だんだん、離れて 投げてみよう 狙った通りに 投げられたよ ③ ふんわりゾーン…玉入れの玉を、バスケットゴールに入れる ゴールの上を狙う よ。 カー杯じゃなくて、 ふんわり投げるよ 狙った通りに ゴールに入ったよ ④ 感想を交流する。 腕や手首を振っていた友だちを 見つけた人は いますか ○○さんが、腕を 速く振っていた ○○さんが、手首を ビュンとしていた		○それぞれのゾーンで見つけたこつを確認し、共有する。 ○3～4人の生活班で、各ゾーンに移動する。 ○かけ声を言っている児童や素早く移動している児童を賞賛していく。 ○遠くへ投げられたり、狙った通りに投げられた児童とハイタッチしたり、驚いたりして、児童の意欲が増すようにする。 ○とおくへゾーンでは、腕の振り方や投げる方向を意識させる。 ○ねらってゾーンでは、狙う場所や投げる場所を変える声かけをしていく。 ○ふんわりゾーンでは、狙う場所や投げる強さを意識させる。 ★腕や手首を振って、投げることができる。【運動】(観察) ・上手く投げる動きができない児童に対しては、かけ声をかけたり、こつを想起させたりする。 ○上手くできていた友だちの動きを共有していく。
深める	5 本時のまとめをし、今後の見通しを持つ。 遠くに投げられるよ うになっているかな 今回は、ボール投げの 記録を測るよ		○次回の予告をして、生活場面での運動の意欲を高める。